

1 単元名 「レッツゴー！久万川探検隊」

2 単元の目標

- 校区内の久万川について調べ、自分たちの生活との関わりや、地域の伝統行事「川狩り」のよさを理解して、下学年に伝わるようリーフレットにまとめることができる。 (知識及び技能)
- 地域の伝統行事「川狩り」との出会いから課題を見出し、地域の発展のために自分たちにできることを考えたり、調べたことや体験したことをリーフレットにまとめて伝えたりすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 地域の伝統行事「川狩り」を続けるために、意欲的に安勝会の人々と関わったり、自分の生活を見直したりしながら、課題の解決に取り組もうとしている。 (主体的に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「久万川探検と安勝会との出会い」「疑似体験を通して「川狩り」のよさを探ろう」「川狩り」のよさや地域の水環境について伝えるためのリーフレットづくり」を教材として取り上げる。

地域に流れる久万川を探検し、川の状態を観察することで、久万川と自分たちの生活との関わりについて関心をもつことができるようにする。また、地域の伝統行事である「川狩り」の継承に力を注ぐ安勝会の人々と出会い、地域の水環境や「川狩り」の意義について学ぶことで、活動への意欲を高めることができる。さらに、「川狩り」の疑似体験を通して、友達や安勝会の人々と協働するよさ感じるとともに、「川狩り」を毎年行うために自分たちにできることを考えるなど、より地域の一員としての自覚をもつことができるようになる。また、調べたことや体験したことをもとに、下学年の心に届くようなリーフレットを作成することで、より相手意識をもって活動することができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、第2学年で地域のよさを探するため、第3学年で校区地図を作成するために町探検を行っている。久万川沿いのコースは、自然が豊かで様々な生き物が見られるため、児童に最も人気がある。また、第3学年では、当時の4年生から、「川狩り」の体験について話を聞いており、活動への意欲をもっている。ただ、4月の段階では、「川狩り」について「かっこいい」「楽しそう」などの印象に留まっている児童がほとんどであるため、本学習を通して「川狩り」の意義や地域の人々の思い、自分たちの生活との関わりなど、多面的、多角的に捉え、考える力を身に付けさせたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、久万川で毎年行われている「川狩り」について知っているこ

とを話し合い、「川狩り」が実際の川には入らず増設された会場で行われていることについて、課題意識をもたせる。また、久万川を探検し、川の水質やごみの量などを観察することで、意外とごみが落ちていることに気付かせる。さらに、安勝会からゲストティーチャーを招いて、久万川の水環境について話を聞き、久万川の水質汚濁によって1967（昭和42）年から「川狩り」が途絶えていたこと、2003（平成15）年に「神輿川狩りの地（プール状）」が整備され、33年ぶりに復活したことを知る。復活にいたるまでの地域の人々の思いや努力に気付かせることで、今後の活動へのさらなる意欲をもたせる。

次に、「川狩り」の疑似体験に必要な準備について、自分たちで考えたり上級生に尋ねたりして活動計画を立てる。川の清掃や神輿作りでは、保護者や地域の人々の協力を得ることで、人とのつながりのよさを感じられるようにする。体験当日には、手作りの神輿を力を合わせて運び、自分たちで会を進行し、安勝会や保護者と一緒に神輿を清めることで、地域の一員としての自覚をもたせたり、友達や地域との絆を深めたりすることができるようにする。

さらに、「川狩り」のよさについて気付いたことや感じたことなどを振り返り、地域の伝統を次の4年生に繋ぎたいという思いをもたせる。そのために必要なことを話し合わせることで、自分たちの生活と水環境についても考えさせる。さらに、国語科と関連させ、調べたり体験したりしたことを生かして、自分の思いを3年生に伝えるためにリーフレットを作成する。その際、内容や表現の工夫をしっかりと考えさせる。

これらの活動を通して、地域に貢献できたか、地域の一員としてもっと自分にできることはないかなどを振り返り、これからの活動につなげていくようにする。

（4）ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…自分たちの生活と久万川の水環境は密接に関わっており、「川狩り」の継承には、地域の協力が必要であること。

公平性…先人が力を尽くして復活させた「川狩り」を、次の世代にも継承していくために、一人一人の意識が大切だということ。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

「川狩り」が毎年続いていくために、どんなことが必要か、自分たちにできることは何かを考える。

批判的に考える力

「川狩り」は続いてきたのではなく、先人たちの努力と工夫によって復活し、継承されてきたことに気付く。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

地域の発展を願って行われる「川狩り」は、地域の人々の楽しみと誇りであり、

これからも続けていかなければならない。

人権・文化を尊重する。

地域に大切に受け継がれてきた「川狩り」という文化を大切に守っていく。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①久万川について調べ、自分の生活との関わりや、「川狩り」の開催に向けて地域の人々が互いに協力し、地域の発展のために尽くしていることに気付いている。</p> <p>②調べたり体験したりして得た知識を、言葉や写真、絵などを用いてそれらを関連付けながらまとめる技能を身につけている。</p>	<p>①「川狩り」の出会いから問いを見出し、「川狩り」のよさを探る課題を自らつくり、解決に向けて見通しをもっている。</p> <p>②学んだことや考えたことを関連付けながら、「川狩り」のよさを伝える相手、内容、表現の工夫について考えている。</p>	<p>①「川狩り」に関心をもち、そのよさを探るために意欲的に安勝会の人々と関わったり、自分の生活を見直したりしながら、課題の解決に取り組もうとしている。</p> <p>②自分も地域の一員であることを自覚し、「川狩り」続けるために地域のためにできることを積極的に考えている。</p>

5 単元の指導計画（全 24 時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 安勝会と「川狩り」の出会いを通して、地域の課題と今後の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「川狩り」は、どうして行われているのかな。 ・今の久万川は、どんな状態かな。 ・「川狩り」には、どんなよさがあるのかな。 	<p>○ 安勝会からゲストティーチャーを招いて、久万川の水質汚濁によって「川狩り」が途絶えていたこと、2003（平成 15）年に 33 年ぶりに復活したことに気付かせ、その意義や課題を考えさせるようにする。</p>	<p>イ① （思判表） ア① （知・技）</p>
<p>2 「川狩り」の疑似体験の準備計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験には何が必要かな。 ・上学年の人に聞いてみよう。 	<p>○ 疑似体験に必要な準備について、自分たちで考えたり上級生に尋ねたりする。</p> <p>○ 久万川を探検し、実態をつかませたり、地域に貢献するために清掃活動や神輿づくりを提</p>	<p>ウ① （主体的） ウ②</p>

<p>3 「川狩り」の疑似体験の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の清掃をしよう。 ・皆で協力して神輿を作ろう。 ・安勝会の人に作法を教わろう。 <p>4 「川狩り」を疑似体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆で協力してがんばろう。 ・大変だけど、楽しいな。 	<p>案したりする。</p> <p>○ 地域の人に協力を得ながら自分たちで会を進行し、地域の一員としての自覚をもたせる。</p>	<p>(主体的)</p>
<p>5 「川狩り」を疑似体験を振り返り、「川狩り」を続けていくために必要なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「川狩り」を続けていくためには、何が大切かな。 ・自分たちの生活を見直して、久万川を守っていく必要があるな。 ・「川狩り」が途絶えないように、3年生に伝えたいな。 <p>6 「川狩り」のよさを3年生に伝えるためのリーフレットづくりをする。</p> <p>国語科「リーフレットを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもってもらえるようにデザインを工夫しよう。 ・「川狩り」のよさが伝わるように、内容をしっかり考えようしよう。 <p>7 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に貢献できたかな。 ・自分たちの生活を見直して、久万川と「川狩り」を守っていききたいな。 	<p>○ 体験後の児童の思いを取り上げ、「川狩り」を続けていくために自分たちにできることはないか考えさせるようにする。</p> <p>○ 国語科単元と関連させ、内容の質や見やすい構成について意識させ、相手意識をもたせるようにする。</p> <p>○ 地域に貢献できたか、地域の一員としてもっと自分にできることはないかななどを振り返り、これからの活動につなげていくようにする。</p>	<p>イ① (思判表)</p> <p>イ② (思判表)</p> <p>ア② (知・技)</p> <p>ウ② (主体的)</p>